

## 1 た・づ・な

### 「中国本土の競馬事情」

財団法人 競馬国際交流協会  
理事長

小池 尚明



BTCニュースをご講読の皆様、たいへんご無沙汰いたしております。

時のたつのは早いもので、私がJRAの初代の生産育成対策室長であった1996年頃には、生産地の育成調教施設はまだ発展途上の段階でしたが、現在では欧米に負けない立派な施設と技術レベルの進歩にたいへん驚くと同時に、大きな喜びを感じております。今や日本の育成調教に関する施設や技術レベルは欧米を凌駕しており、競馬先進国に学び追随する時代は終わって、世界をリードする時代に入ったと確信しております。

今、競馬国際交流協会における主要なテーマは、対中国対応であります。1949年に建国された中華人民共和国は今年の10月で60周年を迎えますが、国内的には様々な問題を抱えているものの、加速度的な成長を遂げる中で中国が21世紀の世界経済の牽引車となることは疑いがありません。当協会では、5年ほど前から中国における馬産業の現地調査や各種の研修事業、そして中国の要人に日本競馬の理解を深めてもらうための招聘等を行ってまいりました。

この中国における近代競馬の歴史は日本より60年以上も古く、19世紀中頃には世界規模の競馬が行われていたと言われておりますが、中華人民共和国の設立後、『刑法第303条』により厳しく禁止されることとなりました。その後、改革開放が叫ばれた1980年代から民間レベルによる賭事を伴う競馬が、北京、広州、深圳、寧波などで公安当局が黙認する中で行なわれていた時期がありましたが、それも2002年の2月に公安部から出された『賭博性の競馬活動を厳しく処分する通知』により、その後の賭博競馬は完全に停止状態にあります。

しかし、現在でも中国には40種以上の在来馬を含め700万頭以上の馬が繋養されており、世界屈指の馬飼養大国であります。

この馬資源を背景に、最近ではスポーツとしての競馬、いわゆる“速度競馬”と称する競走が中国各地（約30ヶ所）で行われており、賭事競馬の再開を期待する富裕層たちによって、新たな競馬場や育成施設の建設、そして海外からのサラブレッドの導入も進められております。

一方で、中国国内では財政部や民政部、体育総局が主導する形で、公的な“くじ”、すなわち福祉くじとスポーツくじ（海外のサッカーとバスケットリーグが対象）が

発行されており、その販売額は毎年急速に増加してきております。このような環境の下で、オリンピックも終了し、60年の区切りを迎える中国において、賭事を伴う競馬が再開されるのは時間の問題だと思われまます。

中国との関係を重視する中東諸国や豪州、米国、フランスといった国々は、中国国内における拠点づくりやサラブレッドの輸出に余念がありません。日本としても、中国競馬の再開に協力する過程で、国内的に閉塞感のある競馬関連産業に大きなビジネスチャンスが訪れることも期待できます。

育成に携わる皆様方におかれましても中国の動向に関心を寄せていただき、日本の優れた育成・調教技術を中国に輸出・移転させていくと同時に、中国本土への営業進出も視野に入れていく時期ではないかと思っております。

日本は2007年にパート1国に昇格し、そして本年5月には念頭であったARFアジア競馬連盟の会長にJRAの佐藤浩二総括監が就任することとなって、名実共に競馬と生産に関する世界のリーダー国としての役割が求められることとなりました。

競馬国際交流協会としても、日本で生産・育成業を営む方々や技術者が中国を含めた海外への進出が進むよう出来る限りの情報提供や側面支援をしていきたいと考えておりますので、何らかの海外進出を検討される場合には、お気軽にご相談いただきたいと思っております。宜しく願いいたします。